

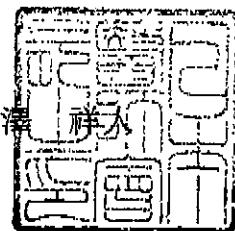


日医発第 831 号 (広情 22 号) F

平成 20 年 11 月 14 日

郡市区医師会長 殿

日本医師会長 唐澤 祥久



平成 20 年度日本医師会医療情報システム協議会の開催について

平素より、本会会務遂行にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

本会では、医師会情報化推進策として「医師会総合情報ネットワーク」の構築を目指し、都道府県医師会、郡市区医師会のご協力を得て推進してまいりました。

本年 2 月に開催いたしました平成 19 年度の協議会は、お蔭さまで全国から 400 名を超える参加者が集い、成功裏に終始いたしました。

今年度の協議会は、医療のIT化という幅広いテーマの中で、診察時の診療支援と医療情報の収集に役立つ、診察室のIT化にテーマを絞り、一般会員の先生方にも積極的に参加していただくことを目的として開催いたします。

協議会は、「患者さんに優しい、より質の高い医療を～より良い医療をめざしてコンピュータを上手に使おう～」をメインテーマとし、特別企画「インターネット活用による最新医学情報の収集と活用」、3つのシンポジウム「医師会事務局のIT化の実情」、「日レセ (ORCA) を100倍使おう」、「外来診療のIT化」、特別講演「外来診療の臨床判断に求められるもの」、日医総研報告が予定され、平成21年2月14日(土)、15日(日)の2日間に亘り、日医会館で開催される予定になっております。

詳細につきましては、下記資料及び専用ホームページをご参照いただき、会員の先生方へのご周知と参加にご配慮を賜りたくお願いいたします。会員の先生方には日医ニュース(12月5日号、12月20日号)を通じてご案内する予定です。

なお、内容等ご不明の点は担当事務局である広報・情報課にお問い合わせ下さい。

記

資料名：平成 20 年度日本医師会医療情報システム協議会

1. プログラム (案)
2. 開催要領
3. 事例報告募集要項・応募用紙・補足説明資料
4. 事務局報告募集要項
5. 都道府県医師会長宛通知文書 (写)

専用 HP : <http://www.med.or.jp/japanese/members/info/sys/2008/>

以上

平成20年度日本医師会医療情報システム協議会

平成21年2月14日(土)、15日(日) 於:日本医師会館

メインテーマ:「患者さんに優しい、より質の高い医療を
～より良い医療をめざしてコンピューターを上手に使おう～」

プログラム(案)

2月14日(土)

14:00 開会 唐澤 祥人 日本医師会長

挨拶 小林 博 運営委員会委員長/岐阜県医師会長

14:15 シンポジウムⅠ「医師会事務局のIT化の実情」

—会員等への情報伝達の現状とこれからの方向性—

座長/山本委員、西本委員、登米委員

16:30 特別企画「インターネット活用による最新医学情報の収集と活用」

座長/牛尾委員、飛岡委員、入江委員

①「情報収集の落とし穴 情報の信頼性と情報への適切な視野の確保」

国立情報研究所連想情報学研究開発センター 高野 明彦

②「医学情報の役立ちサイト」

東京女子医科大学麻酔科教授 尾崎 真

③「薬剤情報」

武田薬品(株)

④ 日本医師会ホームページと厚生労働省ホームページからの情報収集

18:30 懇親会 於:3F 小講堂・ホール

2月15日(日)

09:00 シンポジウムⅡ「日レセ(ORCA)を100倍使おう」

座長/佐伯委員、千葉委員、福原委員

11:15 特別講演「外来診療の臨床判断に求められるもの」

名古屋大学医学部付属病院総合診療部教授 伴 信太郎

座長/小森副委員長

12:00 昼食

13:00 日医総研からの報告

① 特定検診・特定保健指導のIT化への取り組み

② レセプトオンライン請求の現状と問題点

③ 認証局の本格的稼働について

座長/佐伯委員、遠藤委員

13:45 シンポジウムⅢ「外来診療のIT化—IT化で何がよくなるのか、必要不可欠か—」

座長/大橋委員、川出委員

① 診断から治療のためのデータベース

② 外来診療での利用:へき地での診療の場合 等

16:00 閉会挨拶 小森副委員長

平成20年度日本医師会医療情報システム協議会

開催要領

1. 主 催: 日本医師会
2. 開催日: 平成21年2月14日(土)、15日(日)
3. 会 場: 日本医師会館 東京都文京区本駒込2-28-16 Tel: 03-3946-2121
4. 内 容: 別紙プログラム参照
／メインテーマ「患者さんに優しい、より質の高い医療を
～より良い医療をめざしてコンピューターを上手に使おう～」
5. 開催通知
 - (1) 文書を都道府県医師会宛に郵送・FAX・文書管理システムを通じて送付
(郡市区医師会と同様の文書を一齐同報ファックスで通知)
 - (2) 日医ニュース(12月5日号、12月20日号)にて開催案内と一般会員参加募集
6. 参加者および参加申し込み
 - (1) 参加対象者
日医会員および都道府県医師会・郡市区医師会の事務職員
 - (2) 参加申し込み
 - 1) 方法: 専用HP「参加申し込み案内」オンライン又はFAX申し込み
<http://www.med.or.jp/japanese/members/info/sys/2008/mousikomi.php>
Fax: 03-3942-7036(直通)
・医師会事務職員はオンラインから申し込み下さい。
 - 2) 期間: 平成20年11月14日(金)～平成21年1月20日(火)
・オンライン申し込みでは、「都道府県医師会一括申し込み」欄利用可能
・定員520名を超える場合は先着順とし、不足の場合は2次募集を含め調整を要す。
 - (3) 参加費: 無料
7. 事例報告募集
 - (1) 外来診療や患者説明のための診療支援事例
 - (2) 日レセ(ORCA)を100倍使う事例
8. 事務局報告募集
「医師会事務局のIT化の実情—会員等への情報伝達の現状とこれからの方向性—」
9. 懇親会: 日時: 平成21年2月14日(土) 18:30-20:00/3階小講堂・ホール
会費5,000円/銀行振り込み/詳細は参加証と一緒に送付
(都道府県単位でのお申し込みの場合は、一括振り込みをお願いします。)
10. 担当事務局: 日本医師会広報・情報課 Tel: 03-3942-6135(直通) Fax: 03-3942-7036(直通)
担当: 阿部、井川

平成20年度日本医師会医療情報システム協議会

事例報告募集要項

当協議会では、2日目のシンポジウムⅡ「日レセ（ORCA）を100倍使おう」、シンポジウムⅢ「外来診療のIT化」におきまして、先生方の利用事例を募集いたします。

なお、応募多数の場合は、運営委員会におきまして、当日ご発表いただく事例を選考させていただきます。また、それ以外のご応募分につきましては、協議会専用ホームページ上と抄録集へ掲載をさせていただきます。

つきましては、下記要項をご参照いただき、テーマに沿った内容でふるってご応募下さい。（応募用紙、別添）

1) 外来診療や患者説明のための診療支援事例：

先生方が日常診療に際して、診断・治療決定の支援、生化学データーや画像データー等に使用されている診療支援ソフトの利用事例を募集いたします。

2) 日レセ（ORCA）を100倍使う事例：

ORCAユーザー間で、ORCAのすばらしい利用方法、即ち有用であったソフトの情報交換をして、ORCAを有効に使いこなしたいと思い企画いたしました。他の先生方に教えていただきたく事例募集いたします。

1. 募集要項

(1) 応募	「事例募集応募用紙」に必要事項をご記入の上、事例紹介文(200～400文字)、説明画像(PDF)(容量は2MB以内)を添付して専用メールアドレスへお申し込み下さい。
(2) 応募締切	平成20年12月15日(月)迄に、必要資料を添付して、 sys20@po.med.or.jp 宛にお申し込み下さい。
(3) 講演資料	PowerPoint、PDF、HTML いずれかのファイル形式でご提出ください。(PC持込み、スライド、OHP不可)。 会場のWindows PCと液晶プロジェクターを使用します。
(4) 発表	抄録・講演資料は、協議会専用HP上に掲載されます。 発表者は、日医会員に限ります。
(5) 資料締切	平成21年1月13日(火)迄にPowerPoint、PDF、HTML いずれかの形式で sys20@po.med.or.jp 宛にお送りください。

2. 担当事務局：日本医師会広報・情報課（阿部・井川）Tel：03-3942-6135（直通）

事例募集応募用紙

所属医師会:

氏 名:

連絡先住所:

メールアドレス:

1) 応募事例区分 (いずれか該当に○印)

(1) 外来診療や患者説明のための診療支援事例 ()

(2) 日レセ (ORCA) を100倍使おう ()

2) 事例のキーワード分類

(1) の外来診療や患者説明のための支援事例: 下記該当にチェック (複数可)

各種疾患の解説 ()、症候と診断 ()、診断学 ()、治療法 ()、EBM ()、
薬剤の情報 ()、薬剤の使用法 ()、生化学検査法と読み ()、
理学検査と診断 ()、心電図検査と読み、診断 ()、
画像データベースと診断 ()、患者説明 ()、患者教育・指導 ()、
その他 (適切な言葉を記入:)

(2) の日レセ (ORCA) を使う事例: 下記該当にチェック (複数可)

医療経営 ()、受診患者の各種統計処理 ()、レセプト請求前の点検 ()、
各種書類作成のためのデーター利用 ()、
その他 (適切な言葉を記入:)

3) 利用されているソフトが市販ソフトであればそのソフトについての詳細

(1) 市販ソフト名

(2) 販売先と連絡方法

(3) 購入方法と価格

(4) その他

4) 自作ソフト、データーベースならば、他の方々への利用の可否等

(1) 他の方の利用について可否

(2) 提供方法と利用にあたっての制約等

(3) 提供方法

(4) その他

3) 事例の紹介文と説明画像

別に事例紹介文(200~400字)と説明画像(PDF)を添付(容量は2MB以内)して平成
20年12月15日(月)までに日本医師会 広報・情報課 sys20@po.med.or.jp ま
でメールにて提出下さい。

平成20年度日本医師会医療情報システム協議会

日レセ (ORCA) を使ったお役立ちソフト募集 (補足説明)

日レセ (ORCA) の普及も加速度を増し、既に10月現在6,500ユーザーを越えました。今後さらにユーザーの数を増すことは確実であると思われておりますが、レセプトデータ収集という日医が本来目的とした調査事業を成功させるためには、さらにユーザーを増やす必要があります。

多くのユーザーは、ORCAを単にレセプト発行の道具としてのみ日々利用していると思います。しかしORCAの中には、個々の患者の個人識別情報・医療保険の情報・病名・診療開始日・投薬薬剤情報などが眠っています。これらの情報を利用して診療情報提供書あるいはサマリーを作成したり、電子カルテと連動させたりと診療に有効に利用することが考えられます。また一日の患者数・総点数・使用薬剤などの日報や月報データは集計して、様々な処理をして医院経営のために活用することが出来るはずです。

既に様々なORCA活用ソフトが作られ、少しずつその数を増してきていますが、ほとんどのORCA利用者は、そういったソフトを利用することによる恩恵を知ることなくレセプト発行機としてのみ利用しておられるのではないのでしょうか。

ORCAユーザー間で、こういったORCAのすばらしい利用方法、即ち有用であったソフトの情報交換をして、投資した資金以上にORCAを有効に使いこなしたい、こういった思いから、今回、先達のORCAの有用な利用方法についてご紹介いただく“日レセ (ORCA) を100倍使おう”と銘打ったシンポジウムの開催を企画しました。

また、より多くの方々の様々な利用方法を、全国のORCAユーザーに、あるいはこれからORCAを使いたいと検討されている方々に発信するため、当協議会の専用ホームページ内にORCA利用お役立ちソフト掲載コーナーを作りたいと考えました。

ORCAユーザーの医療機関の方々をお願いいたします。どんなことでも、どんな些細な利用法でも結構です、こんなソフトをこんな風に使っていると簡単で結構です。他のユーザーのために、あるいはまだ導入していない医療機関がORCAを導入しても良いと考える動機となるように、即ちORCA普及促進のため“ORCA有効利用お役立ちソフトの利用報告”のご協力をお願い申し上げます。

平成20年度日本医師会医療情報システム協議会

外来診療に役立つ診療支援ソフトの使用経験募集(補足説明)

コンピューターの機能向上が著しい現代において、医師の診療は従来のままでよいのだろうか、診療支援をコンピューター活用により受けながら診療するといったIT化された診療を取り入れ、変化させるのが良いのではないか、必要ではないか、こういった素朴な疑問からの回答を議論しながら導き出す協議会としたいと考えています。

実際、診療の場においてコンピューターを使うとはどういうことでしょうか。自分の記憶の中にある経験、あるいは見聞きし学んだ、しかしある意味限られた知識を頼りに判断・決断を下すのではなく、最新のあるいは未知の知識がないかを様々な診療支援ソフトを使って探し、以前の画像と新しい画像を簡単に比較し、データをグラフ化、あるいは様々に加工し、新たな視点でデータを眺め、分析することを可能にします。

また患者さんへの病状説明や、投薬する薬剤の説明などにも分かり易く説得力を持って話せると思います。このように診療の信頼性をより高め、患者さんに親切な分かり易い診療をすることを可能にしてくれるのがIT化ではないでしょうか。

全国には、市販されたあるいは独自で開発された様々なソフトを活用している先生方や、医師会独自で開発され、会員に提供している医師会も多々あると思います。こういった診療支援ソフトを使った経験のメリット・デメリットに関する情報の共有は、未だ十分とはいえません。また現在の日本においては、診療支援に真に必要な、あるいは診断決定に必要なデータやデータベースが十分に用意されているとはいえません。

こういったソフトあるいはデータ、データベースの情報交換は、医師会員の医療技術の向上に寄与するとともに、まだコンピューターを使ったことのない先生方に対するコンピューター導入の良いインセンティブとして働くことになると思います。

協議会では、こういった様々な診療支援ソフトあるいはデータ、データベース等を活用されている先生方を掘り起こして、その使用経験等を出来るだけ多く報告していただきたいと思います。

今回の事例募集は、シンポジウムに採用にならない場合でも、抄録への収載、あるいはインターネット上での事例発表ということで協議会専用ホームページ上に載せたいと思っております。よろしくお願いいたします。

平成 20 年度日本医師会医療情報システム協議会

医師会事務局の IT 化の実情

— 一会員等への情報伝達の現状とこれからの方向性 —

事務局報告募集要項

当協議会では、各医師会事務局の IT 化への取り組みを発表していただく場として、初日に、シンポジウムⅠ「医師会事務局の IT 化の実情」事務局報告の枠を設けております。

要項は下記のようになっておりますので、ふるってご応募下さい。

1. 募集要項

(1) 応募	医師会名、担当者、連絡先を明記してください。
(2) 演題	演題を明記してください。
(3) 抄録	200～400 字の抄録をご用意ください。
(4) 応募締切	平成 20 年 12 月 15 日 (火) 迄に、演題を明記の上、抄録を添付して、 sys20@po.med.or.jp 宛にお申し込み下さい。
(5) 講演資料	PowerPoint、PDF、HTML いずれかのファイル形式でご提出ください。(PC 持込み、スライド、OHP 不可)。 会場の Windows PC と液晶プロジェクターを使用します。
(6) 発表	抄録・講演資料は、協議会専用 HP 上に掲載されます。 当日の発表の順番につきましては、事前にお知らせいたします。
(7) 資料締切	平成 21 年 1 月 13 日 (火) 迄に PowerPoint、PDF、HTML いずれかの形式で sys20@po.med.or.jp 宛にお送りください。

2. 担当事務局：日本医師会広報・情報課（阿部・井川） Tel：03-3942-6135（直通）

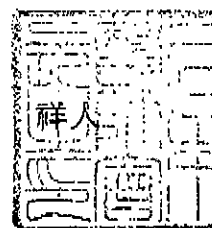


日医発第 830 号 (広情 21 号)

平成 20 年 11 月 14 日

都道府県医師会長 殿

日本医師会長 唐澤



平成 20 年度日本医師会医療情報システム協議会の開催について

平素より、本会会務遂行にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

本会では、医師会情報化推進策として「医師会総合情報ネットワーク」の構築を目指し、都道府県医師会、郡市区医師会のご協力を得て推進してまいりました。

本年 2 月に開催いたしました平成 19 年度の協議会は、お蔭さまで全国から 400 名を超える参加者が集い、成功裏に終始いたしました。

今年度の協議会は、医療のIT化という幅広いテーマの中で、診察時の診療支援と医療情報の収集に役立つ、診察室のIT化にテーマを絞り、一般会員の先生方にも積極的に参加していただくことを目的として開催いたします。

協議会は、「患者さんに優しい、より質の高い医療を～より良い医療をめざしてコンピューターを上手に使おう～」をメインテーマとし、特別企画「インターネット活用による最新医学情報の収集と活用」、3つのシンポジウム「医師会事務局のIT化の実情」、「日レセ (ORCA) を100倍使おう」、「外来診療のIT化」、特別講演「外来診療の臨床判断に求められるもの」、日医総研報告が予定され、平成21年2月14日 (土)、15日 (日) の2日間に亘り、日医会館で開催される予定になっております。

詳細につきましては、下記資料及び専用ホームページをご参照いただき、会員の先生方へのご周知と参加にご配慮を賜りたくお願いいたします。開催通知は郡市区医師会へも通知しております。また、会員の先生方には日医ニュース (12 月 5 日号、12 月 20 日号) を通じてご案内する予定です。

なお、内容等ご不明の点は担当事務局である広報・情報課にお問い合わせ下さい。

記

資料名：平成 20 年度日本医師会医療情報システム協議会

1. プログラム (案)
2. 開催要領
3. 事例報告募集要項・応募用紙・補足説明資料
4. 事務局報告募集要項
5. 郡市区医師会長宛通知文書 (写)

専用 HP : <http://www.med.or.jp/japanese/members/info/sys/2008/>

以上